

平成 25 年 11 月 25 日

雲南市議会
議長 深田徳夫 様

尾原ダム対策特別委員会
委員長 周藤 強

尾原ダム対策特別委員会視察研修報告

下記のとおり視察研修を行いましたので、報告します。

1. 日 時 平成 25 年 11 月 15 日（木）

2. 視察先 鳥取県鳥取市国府町 国土交通省 殿ダム

3. 目 的

尾原ダムが完成し「尾原ダム水源地域ビジョン」が策定された。ダム完成後の最大の課題はダム周辺地域の地域振興である。

尾原ダムとほぼ同時期に建設され、「殿ダム水源地域ビジョン」が策定されている国土交通省 殿ダムを視察し、先行しているその取り組み状況について研修する。

4. 参加者 委員長：周藤強 副委員長：周藤正志
委 員：山崎正幸、土江良治、佐藤隆司
議会事務局：堀江篤史副主幹

5. 視察にあたっての留意点

(1) 殿ダム

殿ダムは、鳥取平野の中央を流れる千代川支流の袋川にあり、治水、水道用水、工業用水、農業用水、水力発電を目的とした多目的ダムである。堤高 75m、堤頂長 294m の中国地方では初のロックフィルダムである。

昭和 43 年 4 月からダム建設の予備調査が開始され、総事業費 950 億円、43 年余の歳月をかけ、尾原ダムよりおよそ 1 年早い、平成 23 年 4 月に完成した。

同年6月には「殿ダム水源地域ビジョン」が策定されている。

(2) 尾原ダム

平成24年3月に完成した尾原ダムは、同年9月に「尾原ダム水源地域ビジョン策定委員会」を設立。その後、具体的な内容を検討するため、同年10月に「さくらおろちを活性化する会」を設立し、基本理念、地域の目標像、基本方針、また、それを踏まえた具体的な取組プロジェクト、その優先順位、先行プロジェクトの内容や役割分担などについて討議が行われてきた。

これらの経緯を踏まえ、平成25年9月13日に「尾原ダム水源地域ビジョン」が策定された。

6. 視察内容

国土交通省鳥取国道河川事務所殿ダム管理支所長から、殿ダム建設の経過や水源地域ビジョンについて説明を受けた。

(1) ダム建設の経過及び周辺整備施設

計画当初は、総事業費570億円で計画されたが、平成17年6月基本計画が変更され、総事業費が950億円の予算となった。実執行額は、900億円余である。

周辺整備施設としては、湖面を利用した「親水公園」（溪流釣り）、原石採取跡地を利用した「中央公園」（自然広場）が整備されている。

また、ダム直下地に「記念広場」（スポーツ広場）が、鳥取市により整備中であった。

施設管理については、鳥取市が指定管理制度で行うとのことだった。

(2) 「殿ダム水源地域ビジョン」の取り組み

水源地域活性化については「殿ダム周辺地域ふるさと再生21プラン」が策定され、殿ダム周辺整備の方向性が打ち出された。

殿ダム水源地域ビジョンは、こうした水源地域の自然環境や歴史・文化を保全・活用しながら、地域の実情に応じて、水源地域である鳥取市国府町の大茅・成器地区の自立的・持続的な活性化はもとより、広く鳥取市全域の幅広いニーズに応える殿ダム湖周辺の利活用についてとりまとめたものである。

① 「殿ダム水源地域ビジョン」の目標である「万葉の歴史と自然の恵みに誘われる因幡のふるさと文化圏づくり」に向けて、「きらめき・いとなみ・いざない・つながり」をキーワードとして、さまざまなイベントが企画され、実施

されている。

② イベント等の実施にあたっては、国土交通省、鳥取市、地元振興協議会及び各種団体の連携・協力が上手く図られている。

このことは、今後の尾原ダム周辺地域振興を図る上で大いに参考となった。

(1) ダム本体及び周辺施設の視察

ロックフィルダムの本体に入り、監査廊内を徒歩で視察した後、周辺施設を視察した。